

# 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Causal model of the association of social support during pregnancy with a perinatal and postpartum depressive state: A nationwide birth cohort—the Japan Environment and Children’s Study

和文タイトル:

妊娠中のソーシャルサポートと周産期および産後抑うつ状態の関連について:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Affective Disorders

年: 2022 DOI: 10.1016/j.jad.2021.12.117

筆頭著者名: 松村 健太

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

妊娠中のソーシャルサポートと周産期および産後うつ状態の関係については多くの疫学研究がなされているが、その関連は未だ十分に明らかではない。そこで本研究では、様々な水準のソーシャルサポートと周産期および産後の抑うつ状態の関連について、因果の逆転に最大限配慮できるような統計モデルを用いて検討を行った。

方法:

エコチル調査参加者のうち 88,771 名の妊婦を対象とした。妊娠中のソーシャルサポートは 4 段階(高い、中の上、中の下、低い)に分類した。周産期および産後の抑うつ状態については、K6 質問票とエジンバラ産後うつ質問票を用いて判断し、K6 質問票では 5 点以上、エジンバラ産後うつ質問票では 9 点以上を抑うつ状態と定義し、それぞれ 2 回測定した。最も高い水準のソーシャルサポートを基準として、ソーシャルサポートの各段階と抑うつ状態の関連を解析した。

結果:

エジンバラ産後うつ質問票で判定された抑うつ状態に対する反事実リスク比(95%信頼区間)は、ソーシャルサポート水準が低いほど高くなり、中の上の水準に対して 1.06(0.99-1.13)、中の下に対して 1.30(1.23-1.39)、最も低い水準に対して 1.61(1.52-1.71)であった。また、2 回目の測定(交互作用)における反事実リスク比は、中の上で 1.05(0.97-1.13)、中の下で 1.05(0.98-1.13)、最低水準で 1.10(1.03-1.18)であった。K6 質問票で判定した抑うつ状態についても同様の傾向がみられた。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果より、妊娠中に十分なソーシャルサポートを得られないことと、周産期および産後の抑うつ状態には関連があり、また自然回復が遅れる傾向がみられることがわかった。これらの知見は、十分なソーシャルサポートを受けることの重要性を強調するものである。本研究の主な限界点としては、統計的因果推論を用いてはいるものの、因果関係を結論づけるまでには至っていないこと、周産期および産後の抑うつ状態は質問票への自己回答に基づいていること等が挙げられる。

結論:

妊娠中のソーシャルサポートが十分でないことは、周産期および産後における抑うつ状態の増加および自然回復の遅れと関連していた。周産期および産後の抑うつ状態の予防だけでなく、抑うつ状態からの自然回復を促すためには、妊娠中に十分なソーシャルサポートを得ることが重要である可能性が示唆された。